福岡県医師会と福岡県産婦人科医会、福岡県小児科医会から県民の皆さまへ　（令和８年４月改訂）

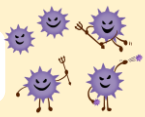
子宮けいがんの予防について
～HPVワクチンについて知ってください～

HPVワクチンは、**小学校６年から高校１年相当の女性**を対象とした定期予防接種です。現在、子宮けいがんの原因の**８０～９０％**を占めるHPVの感染を予防できる**９価HPVワクチン**が、公費（自己負担なし）で接種できます。

子宮けいがんを予防するために、下記についてご理解の上、是非HPVワクチンの接種についてご検討ください。



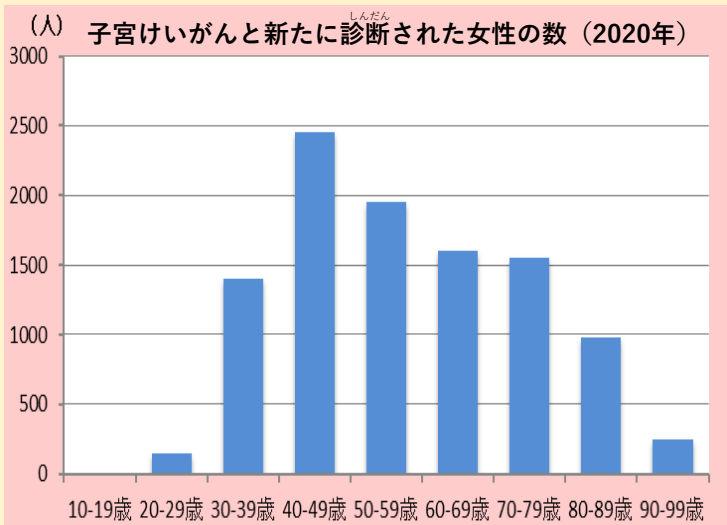
子宮けいがんとは？



子宮けいがんは、子宮のけい部という子宮の出口に近い部分にできるがんで、HPV（ヒトパピローマウイルス）の感染が原因と考えられています。

日本では**毎年、約１万人の女性**が子宮けいがんになり、**毎年、約３,０００人の女性**が亡くなっています。

２５～４０歳の女性のがんによる**死亡の第２位は、子宮けいがん**によるものです。HPVは一度でも性的接触の経験があれば、だれでも感染する可能性があります。





子宮けいがんで苦しまないためにできることは、
HPVワクチンの接種と子宮けいがん検診の受診の２つです。
（HPVの感染を予防）　（がんを早く見つけて治療）

HPVワクチンの効果

- HPVの中には子宮けいがんを起こしやすい種類のものがあります。HPVワクチンは、このうち一部の感染を防ぐことができます。
- ９価ワクチンは、子宮けいがんの原因の**８０～９０％**を防ぎます。
- がんになる手前の状態が減るとともに、がんそのものを予防する効果があることも分かってきています。

HPVワクチンのリスク

- 接種を受けた部分の痛みや腫れ、赤みなどの症状が起こることがあります。
- ワクチンの接種を受けた後に、まれにですが重い症状が起こることがあります。ワクチンが原因となったものかどうかわからないものをふくめて、接種後に重篤な症状として報告があったのは、ワクチンを受けた**１万人あたり約２人です。**

HPVワクチンを受けていても２年に１度は検診を受けることが大切です。

グラフ、数値データについては、厚生労働省ＨＰＶワクチンに関するリーフレットを参照

接種スケジュール

ＨＰＶワクチンは、接種を開始する年齢によって、接種の回数や間隔が異なります。

９価ワクチン

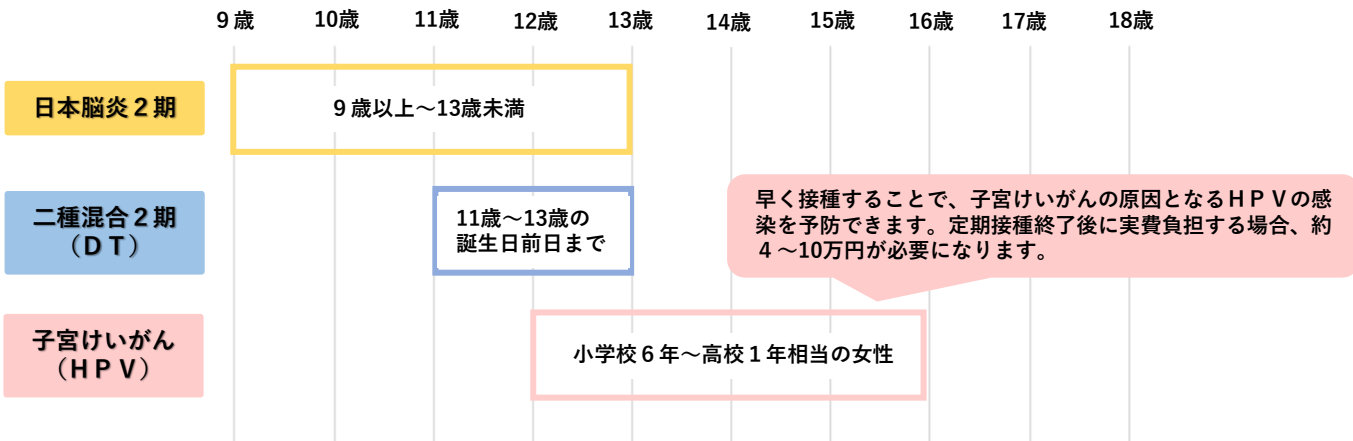
１回目の接種を
15歳になるまでに受ける場合

0か月 １回目 → 6か月 ２回目　合計２回

１回目の接種を
15歳になってから受ける場合

0か月 １回目 → 2か月 ２回目 → 6か月 ３回目　合計３回

学齢期の定期接種（定期接種スケジュール）



■小学校６年生以上であれば、上記のワクチンを同時接種することも可能です。
詳しくは、かかりつけ医にご相談ください。

HPVワクチンに関する相談先一覧

一般的な相談窓口 （医療、健康被害救済制度等に関するご相談）	電話番号
福岡県保健医療介護部がん感染症疾病対策課	092-643-3596
※下記市にお住いの方の相談窓口	
北九州市保健福祉局健康医療部健康危機管理課	093-582-2090
福岡市保健医療局健康危機管理部健康危機管理課	092-711-4270
久留米市健康福祉部保健所保健予防課	0942-30-9730
予防接種の実施に関する相談窓口 →お住いの市区町村の予防接種担当部門	
接種後に、気になる症状が出たとき **→まずは、接種を受けた医師・かかりつけの医師にご相談ください**	

引用：厚生労働省 ＨＰＶワクチンに関するリーフレット

HPVワクチンに関する詳細については、
右の二次元コードから厚生労働省ホームページをご覧ください。

福岡県医師会・福岡県産婦人科医会・福岡県小児科医会